

20 自治体DXをすすめるためのフレームワーク研修

～DXが進んだ未来における最適な解決法を体系的に学ぶ～



目的	DXが進んだ未来における、望ましい姿（自組織や地域社会）を描き、目指す姿に近付くために必要となる「デザイン思考法（デザインシンキング）」を実践的に学ぶ。		
内容	(1) DXの定義とIT化との違いなど、DXに関する知識、理解度の共有を図る。 (2) デザイン思考による課題解決のプロセスをもとに観察・フィールドワークに取り組む。 (3) 取り組むべき地域社会の課題を明確化し、アクションプランにまとめる。		
実施月日	令和5年9月20日（水）～21（木）		
対象者 ・ 定員	県職員	中堅職員キャリアアップ研修対象者で受講を希望する職員	18名
研修講師	株式会社Co-Lab 代表取締役 伊藤 史紀（いとう ふみのり）氏		
プロフィール	<p>～2010年 メーカー向け製造受託サービス(EMS)のベンチャー企業で、創業時から株式店頭公開に至るプロセスを経験。生産管理・営業・人事などの多様な職種でマネージャーを務める。</p> <p>その後、旅館・リゾートホテルの運営受託会社へ転職。現場から支配人までを経験。</p> <p>2010年 個人事業主として独立。組織開発・人材開発のプロとしてThe Bob Pike Group プロフェッショナルトレーニング認定を取得。研修講師として、また、コンサルタントとして、組織の規模拡大や事業承継等に伴う組織変革を支援。</p> <p>2015年 早稲田大学マニュフェスト研究所 人材マネジメント部会の専門幹事となる。</p> <p>100を超える自治体の組織変革を支援。政令市の外部評価アドバイザーや組織変革プロジェクトなどにも取り組む。</p> <p>2017年 株式会社Co-Labを設立。共同経営者4名体制で、自治体の組織開発・人材開発や、中小企業の経営理念・戦略立案から実行支援などを手掛けている。また、個人向けの支援としてパーソナリティ診断をベースとしたコーチングや、オンラインサロンの運営なども行っている。</p>		
昨年度 受講者の声	<p>➢「失敗を許容できるようにする工夫は必要」という視点は参考になりました。デザイン思考を取り入れ、いい成果が得られるよう工夫していくかと思います。</p> <p>➢DXできるできないはおいておいて、BPRの考え方で業務を見直したい。その上で、DXできるものは積極的に提案したいと思った。</p> <p>➢DX化というのは、あくまで手段の一つであり、大切なのは県民や職員の課題や真のニーズを理解し解決していくことだと学ぶことができた。</p> <p>➢話の内容が興味深いものばかりで、引き込まれるように聞いた。</p>		

日程表

		8:50	9:20	9:30	12:00	13:00	16:30
1 日 目	受 付	オリエントーション	1 DXとは ・DXの定義化とIT化との違い ・DXの3段階 ・自治体におけるDX事例 2 デザインシンキングと県民起点 ・デザインシンキングとは ・重要な3つの領域 ・ロジカルシンキングとの違い	昼 食	3 創造的課題解決プロセス ・課題解決プロセス ・観察とフィールドワーク	4 クロージング ・2日目までに取り組むこと	
2 日 目	受 付	5 事前課題の共有 6 創造的課題解決プロセス ・取り組むべき課題の明確化 ・観察案の創出		昼 食	7 DXの目的と手段 ・目的としてのDX(Society5.0) ・手段としてのDX(効率化・自動化) ・観察とフィールドワーク ・効果と効率を踏まえたDX推進 ・アクションアイデア 8 クロージング	アンケート・閉講	

※上記内容は、研修実施時に変更されることがありますので、ご承知おきください。